2024 年 2 月 25 日
宮崎中部教会主日礼拝
牧師　乾元美

箴言 30：7～9
マタイによる福音書 6：25～34
「神こそすべての源」
（ハイデルベルク信仰問答　祈りについて　問 125）
※問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【招詞】イザヤ書 60：1～2
【讃美歌】２４「たたえよ、主の民」
【詩編交読】詩編６編
【赦しの宣言】イザヤ書 55：7「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。
わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」
【讃美歌】５１「愛するイエスよ」
【祈祷】天の父なる神さま
　今朝も、わたしたちに新しい命、新しい朝、新しい主の日を備えてくださり、一人一人の名前を呼んで、この礼拝に招いてくださったことを、心から感謝いたします。
　これから共に、聖書の御言葉を聞きます。聖霊なる神さまが、語る者、聞く者に豊かに働いてくださり、わたしたちの目を、耳を、心を開いてください。そして、御言葉を通して、あなたの恵みの御心を、深く悟ることが出来るよう導いて下さい。この礼拝の中心に、生きておられる復活のイエスさまがいて下さり、豊かな交わりに与かって、わたしたちの信仰がますます力強く励まされますように。そして、聖霊によって新しくされ、また新しく歩み出す一週間を、神さまの御心に従って歩む者とならせて下さい。
　このお祈りを、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン
【聖書】箴言 30：7～9、マタイによる福音書 6：25～34
【説教】「神こそすべての源」
＜日用の糧＞
　主日礼拝では、イエスさまが教えてくださった「主の祈り」について、『ハイデルベルク信仰問答』を用いて、ひと言ずつ、その内容を学んでいます。
　今日は、「主の祈り」の後半部分に入りまして、「われらの日用の糧をきょうも与えたまえ」というところです。この祈りの部分は、今の易しい言葉に直すと「わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください」となります。
　これまで、「主の祈り」の全体は、６つの願いで構成されていて、前半の三つは神さまに関すること。後半三つは、わたしたちに関することの願いになっている、ということを見てきました。
　ちなみに、前半の三つは「み名が聖とされますように」、「み国が来ますように」、「みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」という祈りでした。

イエスさまは、まずわたしたちに、天におられる父なる神さまへと心を向けさせ、神さまのみ名、神さまのみ国、神さまのみこころ、を見つめて祈ることを教えてくださったのです。

そして、後半へ入ると、その後半の一つ目の祈りが「われらの日用の糧をきょうも与えたまえ」という祈りなのです。
わたしたちは、何だか急に、目の前の日常生活に、いつもの忙しない現実に、引き戻されるような思いがするのではないでしょうか。
この祈りの「糧」という言葉は、元のギリシア語では「パン」と言う言葉です。毎日、わたしたちが、この体で生きていくために食する、最も身近なものです。そして、「日用の」という言葉は、「存在するための」という言葉です。
つまり、このお祈りの部分を直訳すると、「わたしたちが存在するためのパンを、今日、わたしたちに与えてください」となります。

この「パンを与えてください」という祈りは、わたしたちが、貧しい時、飢えている時があるならば、涙ながらに祈るような、生きるための、切実な祈りの言葉となるでしょう。
でも、もし、そのような心配があまりないとしたら。明日の分のパンも、明後日のパンも、まだ十分に家にある。そのような状態だとしたら、わたしたちは、このお祈りを、あまり意識せずに、さらっと済ませてしまうことはないでしょうか。
どうしてイエスさまは、今日のパンのことを願うようにと、大切なお祈りの中で、わたしたちに教えてくださったのでしょうか。

＜肉体的なこと＞
『ハイデルベルク信仰問答』の問 125 は、この祈りの部分について、まずこのように教えています。「問 125　第四の願いは何ですか。」
「答　『われらの日用の糧をきょうも与えたまえ』」です。すなわち、わたしたちに肉体的に必要なすべてのものを備えてください、…。」

まず、この信仰問答は、「日用の糧」のことを、パンなどの食べるものだけのことではなくて、「わたしたちに肉体的に必要なすべてのもの」であると教えています。
わたしたちには、食べ物だけでなく、着る物も、住むところも、必要です。そして、わたしたちは、それを得るための仕事や、家族や、友や、助けてくれる人や、コミュニティや、社会や、世の中の仕組みや、国など。実に多くのものによって、今日一日の生活を支えられ、生きています。
そのような、わたしたちに、肉体的に必要なすべてのもの。あらゆるもの。それを、イエスさまは、「天の父なる神さまに、与えてくださるように祈りなさい」と、教えてくださったのです。

しかし、神さまに、肉体的な必要を求めて祈るというのは、なんだか俗っぽいのではないか、と思う方があるかも知れません。ですから、この「糧」というのは、魂の糧のことを言っているのだ。信仰の養いを求めているのだ。そう考えられたこともありました。
でも、わたしたちは、この世の中で、命を与えられて、この肉体で生きていく上で、そのために必要なものを、決して無視するわけにはいきません。
そして実際、今日、生きるために必要な、具体的なものこそが、わたしたちの心を煩わせ、悩み苦しみを与え、悲しみや惨めさを覚えさせるのではないでしょうか。

だからこそ、天の父なる神さまは、そのようなわたしたちの、食べ物のこと、生活のこと、肉体的なことを、すべて真剣に取り扱って下さいます。
そして神さまは、わたしたちが世で生活をしていくために、生きる営みのために、どれだけ不安を覚えたり、悩んだり、苦しんだりするかを、よくご存じです。
なぜなら、まさにこの肉体的な世の只中に、神の御子イエスさまは、わたしたちと同じ肉体を取って、来て下さったからです。
食べ物がなければお腹がすき、着る者がなければ惨めになり、眠るところがなければ不安になる。そんな人間の、肉体的な営みの只中に、イエスさまはわたしたちと同じように、その身を置いてくださいました。
イエスさまは、わたしたちの空腹、わたしたちの貧しさ、わたしたちの労苦をご覧になりました。その苦しみや悲しみや痛みを、ご自分も、十分に経験されました。
ですからイエスさまは、わたしたちが今日を生きることが、どれだけ深刻なことか。どれだけ悩ましいことか。どれだけ大変なことか。すべてをご存知でいて下さるのです。

そして、そのイエスさまが、わたしたちに、教えてくださったのです。
あなたたちは、天の父なる神さまに、今日、生きるためのもの、今日、肉体的に必要なすべてものを与えて下さるよう、祈りなさいと。
ですから、わたしたちは日々のことを、生活のことを、この世で生きるために必要なすべてのことを、神さまに祈り求めて良いのです。いや、そうしなければならないのです。

＜すべての唯一の源＞
わたしたちが、今日生きるために必要なすべてを、天の父なる神さまに祈り求めること。
それは、天の父なる神さまが、わたしたちに必要なすべてを与えることがお出来になる、ということを信頼しているから、出来ることなのです。
この祈りをすることは、天の父なる神さまこそが、今日、わたしたちに必要なものを与えて、生かしてくださるお方であると、認めることなのです。
天の父なる神さまは、わたしたちの命の造り主です。そして、わたしたちを生かし、養い、守ってくださるお方です。だからこそ、この神さまに向かって、わたしたちは、今日生きるために必要なすべてを求めて、祈ることが出来るのです。

ですから、問 125 の、答えの二段目の初めのところには、こうありました。
「あなたこそ良きものすべての唯一の源であられること」。
…「われらの日用の糧をきょうも与えたまえ」という祈りは、祈る相手である、天の父なる神さまこそが、わたしたちにとって、「良きものすべての唯一の源であられる」と知っているから、祈ることが出来るのです。
わたしたちは、この祈りを祈るたびに、天の父なる神さまが、わたしたちを生かす、すべての源であることを知らされる。祈るたびに、今日の、この目の前の食事をも、神さまが、与えて下さったということを思い出す。祈るたびに、今日も神さまが、わたしに必要なものを見極め、最も良いものを、わたしに必要な分だけ、備え、与え、生かしてくださっているのだという、喜びと感謝を思い起こすのです。

ですから、信仰問答の答えの、最後の三段目のところには、こうありました。
「そうしてわたしたちが、自分の信頼をあらゆる被造物から取り去り、ただあなたの上にのみ置くようにさせてください」。
…神さまに、わたしたちに肉体的なすべてのものを備えてください、と祈ることは、決して肉体的なことだけを祈っているのではありません。
これは、わたしたちが、自分のすべての信頼を、自分のすべての拠り所を、ただ神さまにのみ置くようになることを、祈っているのです。神さまこそ、わたしのすべての唯一の源であると、信じさせてください。ただ神さまにのみ、生きることを委ねさせてください。今日も、神さまによって生かされていることを覚えさせてください。
「日用の糧をきょうも与えたまえ」というお祈りは、まさにそのような、信仰のための祈りでもあるのです。

…信仰を持って生きるということは、ただ心の支えや、精神的な拠り所を持つ、ということではありません。信仰は、人生の生き方であり、生きることそのものです。
わたしたちが、神さまを信じる信仰を持って生きるとは。わたしたちの存在、命、人生、生活、食べ物、あらゆることを。肉体的なことも、魂のことも、すべてのことを。すべての源である神さまの御手から、恵みとして受け取って生きるということです。
神さまが、わたしたちのことを愛し、心にかけ、すべてを与え、生かしてくださっているということ。このことを知って生きることが、信仰を持って生きるということです。
そして、このような生き方こそが、神さまに造られたわたしたちの、最も幸いな、最も慰めに満ちた、生き方なのです。
「われらの日用の糧をきょうも与えたまえ」。この、お祈りは、いつもわたしたちを、その幸いに立ち帰らせるのです。

＜神さまの祝福なしには＞
一方で、神さまは、ご自分のことを知らない人々のことも、逆らう人々のことも、わたしたちと同じように、生かし、養い、導いておられます。

この世にあるすべての命は、神さまがお造りになった命だからです。
ですから、世の中には、神さまを知らなくても。祈ることがなくても。豊かに与えられ、多くのものを持っている人が、確かにたくさんいると思います。

でも、人はどれだけたくさん持っていても、それらをすべて与えてくださっている、天の父なる神さまの存在を知らないなら。まことの神さまに祈ることを知らないなら。決して幸いではありませんし、本当の意味で、豊かであるとは言えないのです。

今日の問 125 の答えの、二段目のところには、こうありました。「われらの日用の糧をきょうも与えたまえ」と祈ることは、「わたしたちが、あなたこそ良きものすべての唯一の源であられること、また、あなたの祝福なしには、わたしたちの心配りや労働、あなたの賜物でさえも、わたしたちの益にならないことを知」ることなのだ、と。

天の父なる神さまの祝福がなければ、神さまがおられなければ、すべての、あらゆることは、わたしたちにとって何の益にもならない。何の役にも立たない。何の恵みにもならないのです。
どれだけ多くを持っていても。どれだけ豊かにされていても。神さまがどれだけ賜物をくださっていても。…わたしたちが、それを与えて下さる、神さまを見つめないなら。わたしの命をお造りになり、愛してくださり、わたしを罪から救うためなら、どのようなことでも成し遂げ、何でも惜しまず与えてくださる、天の父なる神さまを知らないならば。すべてのことは、空しいのです。

でも反対に、すべての源である、天の父なる神さまを知るなら。すべての信頼を、ただ、この天の父なる神さまに置いて、生きるなら。
わたしたちは、たとえ、わずかしか持っていなくても、わたしに必要なものを、必要なだけ与えてくださる神さまのご配慮に、感謝し、喜ぶことが出来るのです。
心配りや思い煩いは、神さまへの信頼と平安に変えられるのです。労働や業は、今日のわたしの糧が与えられるための恵みとされるのです。そうして、神さまから与えられたすべてのものは、まことに豊かな、わたしたちの益となるのです。
神さまの祝福の下に置かれてこそ、与えられているすべてのものが、わたしたちをまことに生かし、養うものとなるのです。

ですから、わたしたちに最も必要なものは、「神さまの祝福」なのです。
神さまが、わたしの神でいてくださる。願う前から、わたしの必要をすべてご存知で、わたしに必要なすべてを備えてくださる神さまが、わたしの天の父である。
この恵みの下でこそ、この祝福の下でこそ、「われらの日用の糧をきょうも与えたまえ」と、わたしたちは祈り、今日、必要なすべてのものを、いただくのです。

＜神の国と、神の義を求めなさい＞

今日読まれた新約聖書のマタイによる福音書 6：25～34 は、イエスさまが「主の祈り」を教えてくださった後に、続けて語られた御言葉です。

31 節以下には、こうありました。「だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。」

「何を食べようか」「何を飲もうか」「何を着ようか」と思い悩むこと。それは、異邦人が切に求めているものだ、と言われます。

異邦人とは、良きものすべての唯一の源である、天の父なる神さまを知らない人々のことです。自分の命の造り主を、知らない人々のことです。彼らは、自分を慈しみ、愛し、救うために、心を砕いて下さる神さまがいることを知らないのです。

だから、自分で自分を養うために、自分で自分を守るために、必死にならなければならないのです。競争し、勝ち抜き、生き残らなければならないのです。それで、負けて、脱落したら、もう終わりだと、不安になったり、恐れたりしなければならないのです。

しかし、わたしたちは、天の父なる神さまを知っています。食べるもの、飲むもの、着るものがみな、わたしたちに必要なことをご存知でいてくださり、必要なすべてのものを備えてくださる、天の父なる神さまを知っています。

だからイエスさまは、「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい」と言われるのです。

「神の国」とは、神さまのご支配のことです。このわたしを、生まれる前も、今も、そして永遠に至るまで、神さまがご支配してくださることです。

そして、「神の義」とは、神さまに背いた罪を赦され、神さまの御前に正しい者として立たせていただき、神さまと親しく交わる関係をいただくことです。つまり、わたしたちが、神さまのものとされること。神さまの子どもとされること。神さまと共に生きる者とされることです。

イエスさまは、まず、このことを、求めなさい、と言われるのです。そうすれば、すべてのものは、みな加えて与えられる、と教えられます。

いやむしろ、神の国と神の義を求めることによって、わたしたちの方が、神さまこそ、すべてをみな与えてくださる方であると、信じることができるようになる。そう言った方が良いかも知れません。

わたしたちが、神の国を求める。それは、神さまが、天も、地も、見えるものも、見えないものも、すべてを造られ、すべてを支配しておられること。

そして、わたし自身も、そのご支配の中に置かれていると信じることです。
そうであるならば、どうして、このすべての支配者であるお方が、造られた者の一人であるこのわたしに、必要なものを与えることがお出来になると、信じられないことがあるでしょうか。

また、神の義を求めること。それはつまり、わたしたちが、罪を赦され、神さまの許に立ち返り、神さまとの正しい関係を歩むことです。わたしたちが、神さまのものとして、神さまの子どもとして、歩むことです。
そして、わたしたちがそうなるために、天の父なる神さまは、ご自分の独り子である、イエスさまの命さえも、惜しまずにお与えくださったのです。
そのように、わたしたちが、神さまの御許で、神さまのものとして生きるためになら、ご自分の御子の尊い命さえも与えてくださったようなお方が。どうして、わたしたちの食べ物や、飲み物や、着る物を、惜しんで与えてくださらない、なんていうことがあるでしょうか。

わたしたちは、天の父なる神さまから、このわたしという存在を生きるために、最も必要な、最もよい、最も大切なもの。つまり、神の御子であり、救い主であるイエスさまを、すでに受け取っているのです。
ここまで、わたしたちを愛し尽くしてくださるお方が、わたしたちの神なのです。わたしたちを救うためなら、御子の命さえ、惜しまず与えてくださるこのお方が、わたしたちの父なる神なのです。

だから、わたしたちは、明日のことで思い悩まなくてよいのです。
だから、わたしたちは、今日の糧を、天の父なる神さまにこそ、祈り求めるのです。
そうして、神さまの祝福の下で、神さまのご支配の下で、今日、生きるために与えられている、すべての必要なものを、神さまの恵みとして受け取り、喜んで生きることができる。今日の一日を、感謝をもって生きることができる。
それこそが、わたしたちのまことの益であり、幸いであり、慰めなのです。それこそが、わたしの肉体も、心も、信仰も、豊かに養う、まことの糧なのです。
だから、わたしたちは、毎日、今日も、「われらの日用の糧をきょうも与えたまえ」と、天の父なる神さまに、祈ります。

【お祈り】天の父なる神さま
御子イエスさまを通して、あなたを父と呼び、頼ることができる恵みを、心から感謝いたします。
あなたは、願う前から、わたしたちの必要をすべてご存知であられます。そして、今日もあなたは、わたしたちに必要なすべてを備えて、祝福の内に生かしてくださいます。
あなたへの信頼によって、明日を思い悩むことから解放してください。
み国に、ご支配の内に置いてください。そして、日ごとの糧を祈るたびに、あなたの恵みを思い起こさせ、すべての源であるあなただけを、いつも寄り頼む者とならせてください。
このお祈りを、イエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讃美歌】４５３「何ひとつ持たないで」
【信仰告白】ニカイア信条
【十戒】
【献金】６５－１「今そなえる」
【主の祈り】
【祈祷】
　天の父なる神さま
　イエスさまの十字架と復活によって、わたしたちの罪を赦し、神の子として受け入れて下さったことを、感謝いたします。わたしたちが、まことに、父なる神さまを心から信頼して、ただあなたがすべての源であり、あなたからすべての良きものをいただいていることを覚えて、今日も、祝福の内に養われ、歩むことが出来ますように。
　先日は、宮崎中部教会の創立 99 周年を迎えました。あなたの救いの御心が、イエスさまによって成し遂げられ、この遠くの地にまで、あなたの救いへの招きが及んでいますことを、心から感謝いたします。どうか、これからもますます宮崎の地で、一人でも多くの者たちを、御許へと招いてください。わたしたちもまた、あなたの恵みに喜んで生き、礼拝を心からささげ、この地で、あなたの御業に、生き生きと仕えていくことが出来ますように。
　そしてあなたは、今日もこのように礼拝を備えて、わたしたちを招き、御言葉を与えてくださいました。心から感謝いたします。今週の受難節の歩みも、わたしたち一人一人が、イエスさまの十字架を覚えつつ、聖霊によって、悔い改めと感謝をもって、歩んでいくことが出来ますように。
　また、今日ここに集うことのできなかった、愛する兄弟姉妹を覚えます。体の弱さや痛みを覚えている者に、癒しを。悩みや困難を覚えている者に、導きを。信仰の弱さを覚えている者に、祈りと励ましをお与えください。そして聖霊なる神さまが、御言葉を届けて下さり、この礼拝の祝福と恵みに、共に豊かに与らせてくださいますように。
　また、この礼拝に、新しく招かれている方たちを覚えます。どうか、御言葉を通して、まことの神であるあなたを知ることが出来ますように。イエスさまの救いの御業を、自分の救いの恵みとして、受け入れることが出来ますように。聖霊なる神さまが、まことの信仰へと導いて下さいますように、心から祈り願います。
　神さま、世界においては、戦争が続き、あなたがお造りになり、愛しておられる命を、傷つけ合い、奪い合っています。どうか、憐れんでください。どうか、お赦しください。一日も早く争いが止み、傷つき、悲しみ、嘆いている人々に、平和と癒しが与えられますことを、心から祈り願います。また、そのために、わたしたちも、あなたの平和の使者として、この地に御心が成りますようにと、祈り続けることが出来ますように。
　そして共に、この地で、福音を告げ知らせ、悔い改めを叫びつつ、主に仕える諸教会の歩みを、どうか力強く励まし、導き、用いて下さいますように。
　このお祈りを、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讃美歌】２８「み栄あれや」
【祝福】主があなたを祝福し、あなたを守られるように。
　　主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。
　　主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。
　　主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、
　　あなたがた一同と共にあるように。アーメン